

① 申請者	丹波篠山市	② タイプ	<input checked="" type="checkbox"/> 地域型 / シリアル型 <input checked="" type="radio"/> A B C D E
③ タイトル			
丹波篠山 デカンショ節 -民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶-			
④ ストーリーの概要(200字程度)			
<p>かつて城下町として栄えた丹波篠山の地は、江戸時代の民謡を起源とするデカンショ節によって、地域のその時代ごとの風土や人情、名所、名産品が歌い継がれている。</p> <p>地元の人々はこぞってこれを愛唱し、民謡の世界そのままにふるさとの景色を守り伝え、地域への愛着を育んできた。</p> <p>その流れは、今日においても、新たな歌詞を生み出し新たな丹波篠山を更に後世に歌い継ぐ取組として脈々と生き続けており、今や300番にも上る「デカンショ節」を通じ、丹波篠山の街並みや伝統をそこかしこで体験できる世界が展開している。</p>			
			

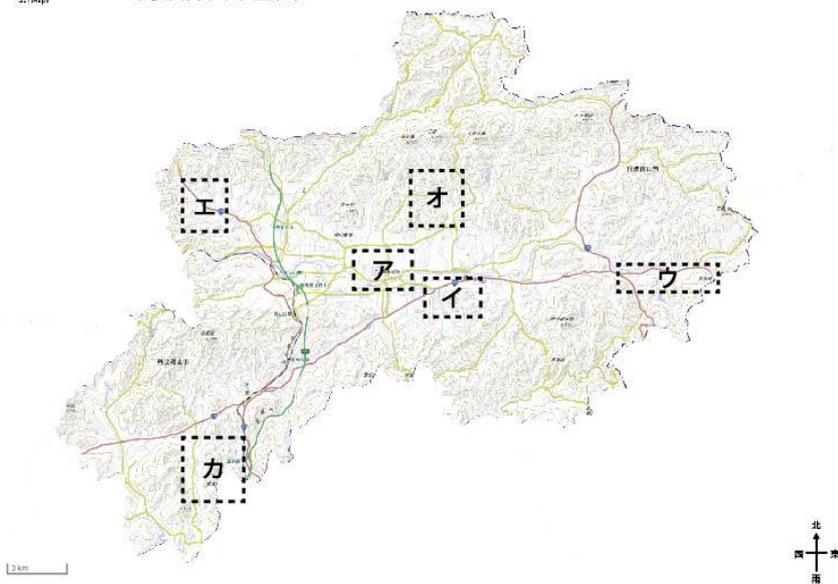
市町村の位置図（地図等）

地理院地図
GSI Maps



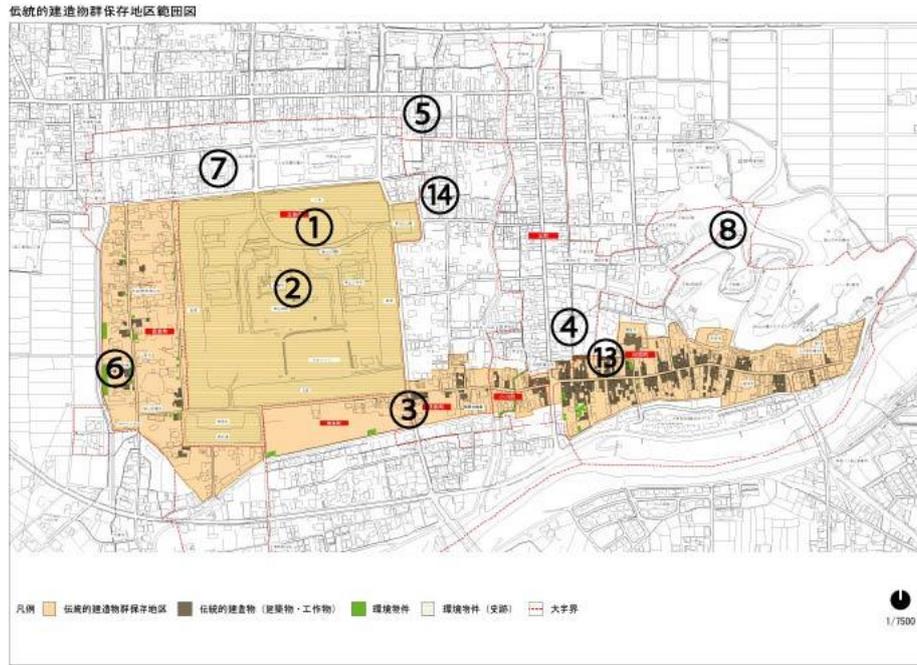
地理院地図
GSI Maps

丹波篠山市全図

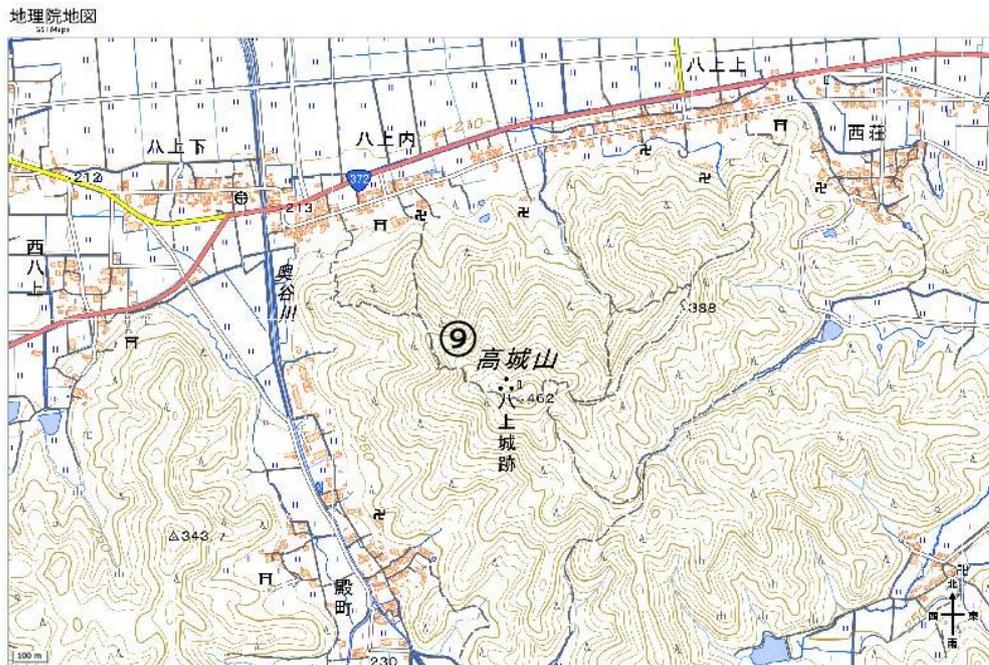


構成文化財の位置図 (地図等)

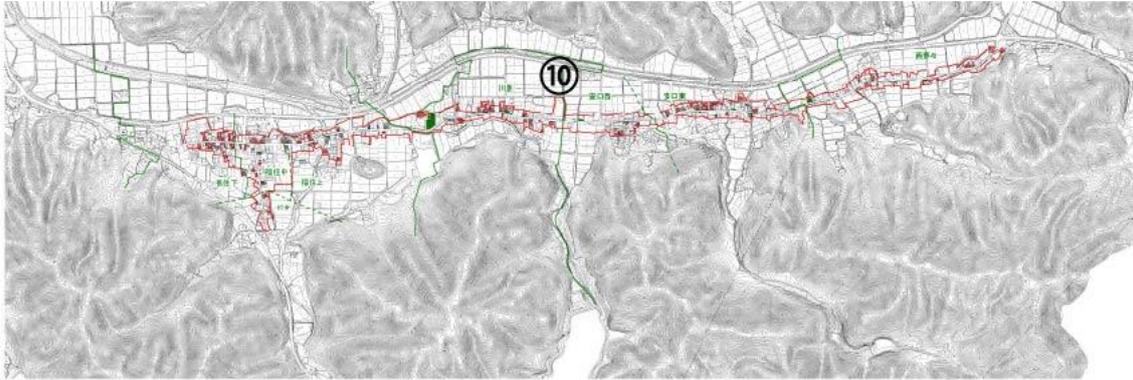
ア 城下町地区



イ 八上地区



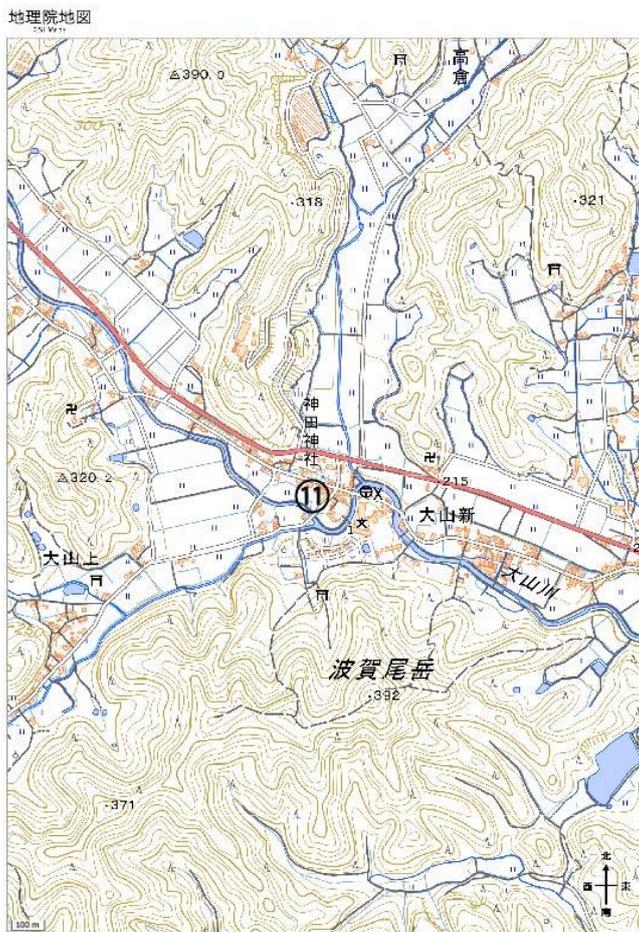
ウ 福住地区



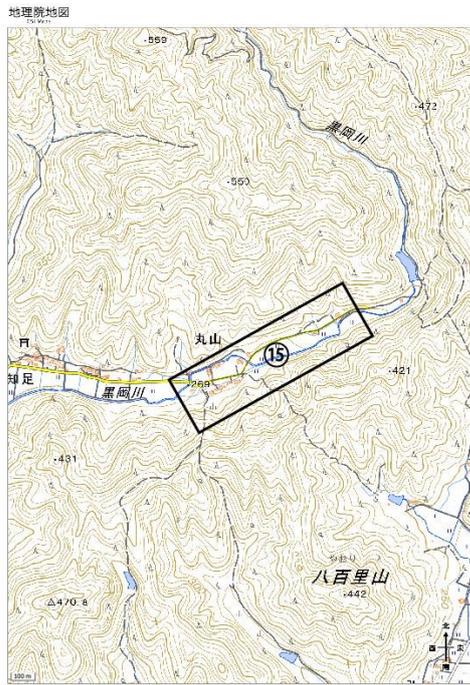
伝統的建造物群保存地区範囲図

保存地区面積：約25.2ha 凡例 保存地区 境界 自然保存 伝統的建造物・遺棄物 伝統的建造物・工作物 建造物等 scale / 20000

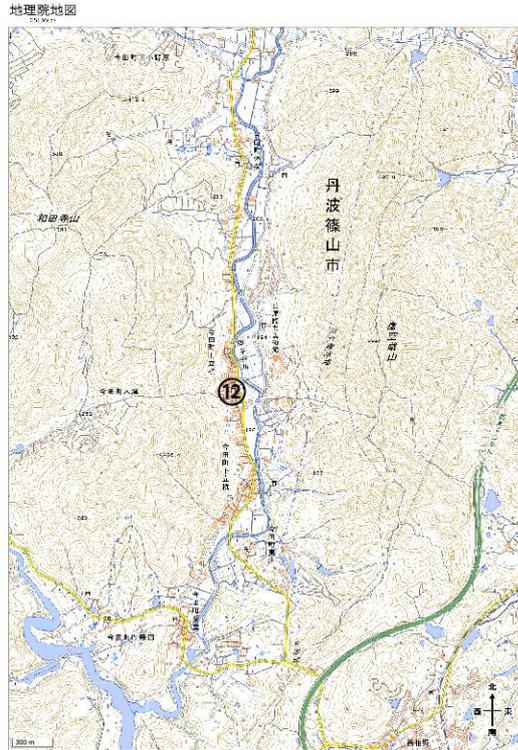
エ 大山地区



才 城北地区



カ 今田地区



ストーリー

デカンショ節と伝統の生きるまち

大阪から電車に乗り北へ約1時間、さらに篠山口駅からバスで東へ5キロ、逞しい緑の山々に囲まれた盆地、これがデカンショ節の発祥地丹波篠山である。中央に天下普請で築かれた篠山城があり、天守台に立てば、去り難い情懷を誘う町並みと山並みを一望することができる。城下町を中心に、宿場町、農村集落、窯業集落などの町や集落の景観、全国的にも著名な黒大豆や山の芋などを生産する田畑、緑豊かな山林や山並み、オオサンショウウオの棲む清流、京文化や播磨地方の影響を受けた様々な形態をもつ祭礼などの伝統文化を含む重層的な歴史や文化が伝えられている。デカンショ節は、こうした伝統の生きるまちの中で、人々が200年に亘り、その時々を思いを込めて育んできた民謡である。



デカンショ祭(篠山城跡)



春日神社能舞台 元朝能

デカンショ節の由来と変遷

囃子言葉の「デカンショ」の語源は「ドッコイショ」が転化したものなど諸説あるが定かではない。その始まりは、江戸時代から歌われていた盆踊り唄「みつ節」とされる。かつて盆踊りは一年中続く厳しい農作業や労働に明け暮れた人々にとって、かけがえのない楽しみのひとつであり、夜明けまで歌と踊りが途切れることはなかった。このころの歌詞は素朴なものが多く、自然の情景に農婦の糸紡ぎや焼物の作業工程などの様子を織り交ぜたものなどが見られる。

明治に入ると、篠山藩主や多くの家老たちは、東京に居を移すこととなる。デカンショ節の筆頭に歌われる「丹波篠山 山家の猿が 花のお江戸で 芝居する♪」はこの頃のことを歌い込んだものと思われる。

明治31年(1898)の夏、千葉県館山の江戸屋(旅館)において遊学中の篠山出身の学生たちから旧制一高(現東京大学)の学生にデカンショ節が伝わり、多くの若者達の共鳴を受けたデカンショ節は全国各地に広まっていく。

「一弦の琴」(宮尾登美子著)や「一高ロマンス」(大佛次郎著)には、学生

たちの間で愛唱される様子が描かれている。こうして、明治中頃から大正にかけて、デカンショ節は、書生節としての雰囲気歌詞を加えながら全国を駆け巡り、かたやこの頃から始まる新聞社等による新作歌詞の募集では、篠山城、八上城などの文化遺産や黒豆や栗などの産物を題材に、ふるさとへの思いを歌詞に刻みこんだものが多く登場し、さらに郷土色豊かな民謡へと厚みを増していった。

昭和に入ると、丹波篠山も徐々に戦争の渦に飲まれていく。「春日まつりだ 銚山神輿、いのる武運を 神かけて♪」前線にいる郷土の若者に送られた慰問絵葉書には、郷土の祭の情景に無事を祈る思いが込められたデカンショ節の歌詞が記されていた。

戦後、それまで各地区で行われていた盆踊りを統一、民謡デカンショ節と踊りが一体化していく。昭和28年(1953)に第1回デカンショ祭りが河原町の河川敷で開催され、デカンショ祭が誕生する。篠山城跡に会場を移し、人々は地域や団体で連を編成して参加するようになり、祭の規模は徐々に拡大、兵庫県を代表する夏祭となる。昭和45年(1970)には日本万国博覧会に400人が浴衣を着て出演する



波々伯部神社の祭礼



デカンショ祭(篠山城跡)

など、日本の高度成長期を背景に、地域の人々は、こぞってデカンショ祭に情熱を注ぎ込んだ。この頃のデカンショ節には、「世界平和」、「テレビ・ラジオ」、「国体」など近代的な言葉による明るい歌詞が加えられていく。

デカンショ節は、それぞれの時代が描かれた連綿と続く時代絵巻であり、ふるさとの記憶である。



丹波焼 登り窯

歌い継がれるデカンショ節

毎年8月15日・16日、町家の軒先の提灯に火が灯される頃、篠山城跡に組まれた櫓から、デカンショ節が聞こえてくる。

デカンショ祭は、盆踊りから受け継いだ親しみやすさがあり、踊りの輪に気軽に誰でも飛び込める気安さがある。また、地元の高校やデカンショ節保存会では、デカンショバンドやジュニア競演会などに力を入れており、祭りは日頃の成果を発表する場であると共に、あらゆる世代が楽しみにして参加する「ハレ」の場となっている。



高校生によるデカンショバンド

人々は、歌い継ぐことを通じて、民謡の世界そのままにふるさとの文化と伝統的な暮らしを守り伝えてきた。300番を超えるデカンショ節の歌詞に、今も人々は新たな時代を投影し、新たな丹波篠山を後世に歌い継ぐ取組みを脈々と続けている。

デカンショ節からのメッセージ

デカンショ節を歌うとき、人々は、先人がいかに地域の文化遺産や産物を大切に、そして誇りにしていたかを知る。文久元年（1861）建立の能舞台、そこで行われる元朝能、そして城を囲む武家町と商家町など守り抜き残された景観が、その思いを伝えている。また、昭和56年（1981）、城下町地区にある明治24年（1891）建築の地方裁判所が、都市計画道路上にあることから壊されようとした時、地域の人々の懸命の努力により、曳家工法で方向転換し建物を残したことは、何を大切にすべきかを示すエピソードとして語られている。



城下町の町並

農村の暮らしの中で、デカンショ節に縁深いものとして丹波杜氏がある。「灘の名酒は どなたがつくる おらが自慢の 丹波杜氏♪」は、灘五郷の酒を天下に高く知らしめた丹波杜氏が、地域の人々の誇りとなっていることを示している。また、作陶の様子がユーモアを交えて歌われている丹波焼は、多くの窯元は半農半陶と言われるスタイルで陶器を作っていたことで、大規模化することなく、のどかな窯業集落の景観と作陶の技を伝えている。デカンショ節は、こうした暮らしを明るく歌に刻むことで、丹波篠山の人々を鼓舞し応援し続けてきたのであろう。



丹波焼製造風景

デカンショ節には、人々の喜怒哀楽や心意気、希望、誇りと共に、地域の文化遺産や産物が歌に織りなされてきた。歌われるたび、歌の中の風景が、地域の人々の共通の風景となり心を繋いでいく。そして、デカンショ節は、歌の世界そのままに残る多種多様な文化遺産や産物、かけがえのない風景を後世につたえることの大切さを人々に語りかけている。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	でかんしょぶし デカンショ節	市無形 (民俗)	江戸時代から続く民謡「デカンショ節」は、明治31(1898)年、篠山出身の遊学生たちから旧制一高(現東京大学)の学生たちに伝わり、「丹波篠山 山家の猿が 花のお江戸で芝居する♪」で始まる歌は、たちまち多くの学生や若者から愛唱され全国に広まった。 歌詞には、天下普請の篠山城をはじめ、伝統的な特産物である丹波黒大豆・丹波松茸・ぼたん鍋、日本の酒造技術の礎となった丹波杜氏の姿など数多くの歴史文化関連資産が歌いこまれ、有形・無形の文化を伝えている。	
2	ささやまじょうあと 篠山城跡	国史跡	デカンショ節「並木千本 咲いたよ咲いた 濠に古城の 影ゆれて♪」他幾度となく歌詞の中で歌われる篠山城跡は、天下普請により慶長14年(1609)年、徳川家康が山陰道の要衝に築いた城であり、平成12年には大書院が復元され一般公開されている。現在は、三の丸跡をデカンショ祭の主会場とし、篠山城跡の存在は市民の心のシンボルとなっている。	
3	ささやまじょうかまちちく 篠山城下町地区	国重伝建・未指定 (文化的景観)	デカンショ節「オラが殿さは 六万石よ 今じやのどかな 城下町♪」と歌われる城下町は、篠山城跡を核とし、江戸時代の武家町や商家町の町割りを残すなど城下町の要素を全体によく残している。デカンショ祭りが行なわれる8月には提灯などで町中が彩られ、情緒豊かな歴史的風致を伝える。	
4	おだがきしょうてん 小田垣商店 (店舗他9件)	国登録有形 (建造物)	デカンショ節「丹波篠山お茶栗さんしょ 野には黒豆 山の芋♪」と歌われる篠山の特産物のひとつである黒豆(黒大豆)を扱う小田垣商店は、塗屋づくりの重厚な外観を見せ、18世紀後期の老舗商店の屋敷景観をつくっている。	
5	ほうめいしゅぞう 鳳鳴酒造 (主屋他8件)	国登録有形 (建造物)	デカンショ節「酒は呑め呑め 茶釜でわかせ お神酒あがらぬ 神はない♪」と歌われる酒を造り続けている造り酒屋のひとつが鳳鳴酒造である。主屋は街路に面したむくり屋根の切妻造、つし2階で、吹き抜けて店舗も兼ねる。	
6	きゅうあんまけじゅうたく 旧安間家住宅 (現武家屋敷安間家史料館)	市有形 (建造物)	デカンショ節「丹波篠山鳳鳴の塾で 文武きたえし 美少年♪」と歌われている鳳鳴の塾(現県立鳳鳴高等学校)は、藩校振徳堂を前身とする。安間家は藩主青山家の家臣で御徒士町の下級武士であったが、振徳堂において和算の指導にあたり学問の振興に努めた。現在は武家屋敷安間家史料館として、和算関連史料等を展示し当時の武家の暮らしを伝えている。	

7	あおやまれきしむら 青山歴史村 (旧澤井家長屋門、青山文庫、丹波篠山藩「青山家」古文書、大学衍義補版木他)	市有形 (建造物、典籍、古文書、歴史資料)	デカンショ節「論語孟子も 読んでは見たが 酒をのむなど 書いてない♪」青山歴史村(旧青山家別邸)に残る「大学衍義補(だいがくえんぎほ)」(寛政4年=1792)「通鑑覽要(つがんらんよう)」(天保5年=1834)「刪訂古今文致(さんていこきんぶち)」(慶応3年=1867)の三種類の版木(約1200点)は、いずれも篠山藩が翻刻したもので、これら漢学書関係の版木は全国的に珍しい。また、青山文庫の和漢籍655点は近世国文学の一级資料となっており、漢籍・歴史・地誌など学問を尊んだ篠山藩の気風を伝える書籍も数多く残されている。
8	おうじやまいなりしやほんいん 王地山稲荷社本院	未指定有形 (建造物)	デカンショ節「花のお江戸で平左衛門が 天下無敵の勝名乗り♪」と歌われる平左衛門は、篠山藩主青山忠裕が老中を勤めた文政年間の頃、江戸両国の將軍上覧の大相撲で、篠山藩のお抱え力士たちは連敗していた。ある年、篠山から来た王地山平左衛門ら8名の力士たちが現れ連戦連勝してしまった。忠裕は喜び、褒美をとらそうとしたがどこにもいなので調べてみると、全員が領内のお稲荷さんの名前だったと云う伝説が伝わっている。王地山はもみじの名所でもあり、負けきらい稲荷として多くの参拝者が訪れる。
9	やかみじょうあと 八上城跡	国史跡	デカンショ節「島と浮かぶよ 高城山が 霧の丹波の 海原に♪」と歌われる八上城跡は、高城山に本城があり、織田方の明智光秀による丹波攻略の主戦場として、また近接する近世城郭篠山城と対比する城として日本城郭史上貴重な遺構となっている。
10	たんばささやましふくすみでんとうてき 丹波篠山市福住伝統的 けんぞうぶつぐんほぞんちく 建造物群保存地区	国重伝建	デカンショ節「夜霧こめたる 丹波の宿の 軒におちくる 栗の音♪」と歌われる宿が、宿場の宿を指すものであるかは定かではないが、江戸時代、旧山陰街道が貫く福住には本陣がおかれ、宿場町として賑わった。宿場町に連なる農村集落は茅葺農家でありながら宿場を補完する役割を担ったとされ、この歌の情景そのままの歴史的景観を今に伝えている。
11	にしおけじゅうたく 西尾家住宅 (主屋他10件)	国登録	デカンショ節「灘の名酒はどなたがつくる おらが自慢の丹波杜氏♪」全国でも名高い丹波杜氏だが、西尾家はその技術をもって江戸時代から篠山藩ご用達として酒造業を営んでいた。江戸時代後期の俳人西尾武陵の生家でもある。享保18年(1733)建築の主屋を屋敷景観の中核とし、旧山陰街道の街道景観形成に寄与する貴重な建物である。
12	たんばたちくいかま(さくようぎほう) 丹波立杭窯(作窯技法)	国選択 県有形 (民俗)	デカンショ節「嫁がほしゅうて 轆轤を蹴れば 土はくるくる 壺になる♪」と歌われる丹波焼は日本六古窯として知られ、現在でも大規模な製陶工場等はなく、各窯元はほとんどが家内制で約60軒の窯元が丹波焼を生産している。丹波焼における連房式登窯は近世初頭と言われており、この時期に穴窯から登窯に移行したものと考えられており、窯の全長が40メートル以上と長いことも窯の特徴の一つとなっている。また、古丹波コレクションとして312点が県指定文化財として丹波古陶館に保管され一般・公開されている。
13	こたんばこれくしょん 古丹波コレクション	県有形 (工芸品)	

14	たんぼとうじ (しゅぞうぎじゅつ) 丹波杜氏 (酒造技術)	未指定 (民俗)	デカンショ節「灘の名酒は どなたがつくる お らが自慢の 丹波杜氏 ♪」と歌われる丹波杜氏は その名声は古くより聞こえ、その歴史は宝暦年間 (1751) にさかのぼる。「出稼ぎしよ」は「デカ ンショ」の語源の一つとも言われている。昭和初 期には杜氏約 780 人、蔵人を合わせ約 4100 人が 海外を含む各地で活躍した。高度経済成長ととも に、厳しい作業環境を敬遠され、機械化で省力化 も進み、現在は杜氏 40 人、蔵人約 130 人となっ ている。	
15	まるやましゅうらく 丸山集落	未指定 (伝統 的建造物群)	デカンショ節「雪がちらちら 丹波の宿に 猪が 飛びこむ 牡丹鍋 ♪」と歌われる情景が丹波篠山 にある。丸山集落は篠山城下から約 3 キロ北部の 多紀連山山麓にある集落で、総家屋数 12 件の旧 茅葺民家が特徴となっている。傾斜を活かし石積 みと一体となった戌亥蔵と築地塀に囲まれ、妻入 りや中門づくりの茅葺民家が今も現役として残 り 3 棟の民家が農家民泊 (オーベルジュ) として 活用されている。	

※デカンショ節出典 「篠山の民謡」昭和 32 年 篠山民謡保存会発行、「丹波篠山デカンショ祭五十回記念誌」平成 14 年 デカンショ祭 50 回記念事業特別委員会発行

- (※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること (例: 国史跡、国重文、県有形、市無形、等)。
- (※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること (単に文化財の説明にならないように注意すること)。
- (※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること (複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

1 デカンショ節



2 篠山城跡



3 篠山城下町地区



4 小田垣商店



5 鳳鳴酒造



6 旧安間家住宅



7 青山歴史村 (旧澤井家長屋門、大学衍義補版木)



8 王地山稲荷社本院



9 八上城跡



10 丹波篠山市福住伝統的建造物群保存地区



11 西尾家



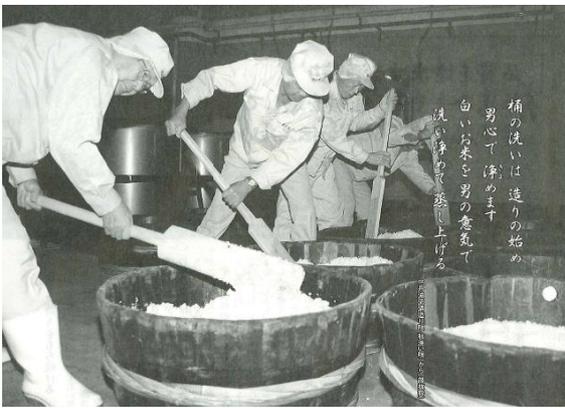
12 丹波立杭窯



13 古丹波コレクション



14 丹波杜氏



15 丸山集落



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)

日本遺産第1号に認定された、「丹波篠山デカンショ節—民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶」。

かつて城下町として栄えた丹波篠山の地は、江戸時代の民謡を起源とするデカンショ節によって、時代ごとの風土や人情、名所、名産品が長い歴史を経て、歌い継がれている。人々はこぞってデカンショ節を愛唱し、歌の世界そのままに残る多種多様な文化遺産や産物、かけがえのない風景を守り伝えながら、地域への愛着を育ん



波々伯部神社 祇園祭での山車の巡行

できた。現在においてもデカンショ祭に行う「デカンショ節大賞」で毎年新たな歌詞を生み出す仕組みができており、親から子へ、子から孫へというように、丹波篠山の姿や市民の生きざまを後世に歌い継ぐ取組として脈々と息づいている。400番以上にもものぼるデカンショ節は、丹波篠山市が世界に誇る文化遺産の生産システムである。日本遺産のまちであり、ユネスコ創造都市でもある丹波篠山市は、世界に通じるまちづくりをこれまでも、そして、これからも丹波篠山スタイルで進める。

(1) 総合計画における日本遺産の位置づけ

丹波篠山市には、人や地域が相互の信頼関係を築きながら、支え合いと活気あるまちを実現することができる素地がある。さらに、京都・大阪・神戸の大都市圏からも近く、丹波篠山市にあるさまざまな資源を生かして交流や定住に結びつけるなど、新しいまちづくりを切り開く可能性がある。そこで、第2次総合計画では「人・自然・文化が織りなす食と農の都」をテーマに、これまで培われてきた丹波篠山のよき営みや共生の暮らし方を実践する住みよいまちを「農の都」として継承し、発展させてきた。そして、特産物を生かした地域活性化の実践など、丹波篠山の良さを活かすまちを「食の都」として創造してきた。

また、丹波篠山グランドデザイン2040や第3次総合計画では、日本遺産を活用したまちづくりを全体の共通の視点としている。それは、利便性や経済性を追求した都市的なまちづくりばかりでなく、丹波篠山の「農」や「食」を基盤として、地域資源とともに生きる共生のまちづくりを進め、人々の暮らしや文化が息づき、将来にわたって皆の「ふるさと」であり続けたいというものである。そして、特に、総合計画前期基本計画（令和3～7年）では、日本遺産の構成文化財である美しい景観の保全、農業振興、歴史・伝統・文化の継承と芸術の振興を進めつつ、これらを支える教育や担い手の育成を図り、日本遺産を観光の重要な資源として保存・活用することで、将来にわたって地域の潤いを高め、まち全体が活性化することを未来像に掲げている。

(2) 魅力あるまちづくり

丹波篠山の美しい山並みや田園、農村集落の景観は「日本の原風景」ともいわれており、訪れる人の心に安らぎや郷愁を誘っている。また、篠山城跡を中心に無電柱化や道路の美装化などの景観整備が完了した城下町地区や、国の重要伝統的建造物群保存地区の景観は、歴史情緒あふれる資源として観光客からの人気を博している。近年では、観光で訪れたことをきっかけに丹波篠山が好きになり、移住する人や新規起業者が増加傾向にある。このため、観光客らが丹波篠山ファンになり、移住や起業につながれるよう、こうした美しい景観を市民とともにしっかりと守り、後世につなぐまちづくりを進めていく。

歴史と文化、芸術については、日本遺産の構成文化財であるデカンショ節や丹波焼をはじめ、八上城跡、春日能、お苗菊のほか、数多くの歴史文化の薫りが今も漂っている。また、陶芸やガラス、皮工芸などの様々な分野の芸術家が好んで丹波篠山に移住し、古民家や空き店舗を活用した起業が増えてきている。今後、地域資源の情報発信や普及啓発をより一層強化し、多くの観光客を誘致することで地域が元気になり、地域が潤うことで市民の暮らしが豊かになり、構成文化財の保存・活用にもつながるといふ継続的な好循環を目指す。

基幹産業である農業については、平成21年、市は日本の農業の都を目指すことを「農都宣言」として宣言し、担い手の育成や特産物の振興、自然環境に配慮した農業と農村づくり等の取組を進めてきた。令和3年2月19日には「丹波篠山の黒大豆栽培～ムラが支える優良種子と家族農業～」が日本農業遺産に認定され、丹波篠山農業に新たに名誉ある歴史を刻んだ。今後、生産者とともに美しい田園を保存・活用する取組を進めるとともに、生産者は特産物の栽培を通して収益を生み、その栽培技術が次世代へと引き継がれていくよう、生産者、行政、JAなど関係機関が連携して丹波篠山農業の活性化に取り組み、本場本物の味を全国へ継続して発信していく。

(3) 誇り・教育(継続的な地域の担い手育成)

丹波篠山市の資源を守り、引継ぎ、磨き上げるのは「人」である。市民が丹波篠山市民であることに自信と誇りを持ち続け、日本遺産を活かした市民主体のまちづくりが一層盛り上がるよう、構成文化財等の保存・継承にかかる人材育成や、観光まちづくりを推進する人材育成等に取り組む。市民活動では、デカンショ節保存会や丹波焼陶工などの市民が講師となっており、次世代の子どもたちに伝統芸能や伝統技術を継承する活動が広がってきている。このデカンショ節にある丹波篠山の一つ一つの要素を引き継ぎ担う個人、団体、地域の担い手育成が将来にわたって継続的に展開されるよう、市民、行政、関係団体等がしっかりと連携して取り組んでいく。また、学校・家庭・地域が連携してふるさと教育に継続的に取り組む体制づくりをさらに推進する。

(4) まちの活性化

日本遺産の資源を活用して観光客を誘致することにより、地域が潤い、まちが活性化することは重要である。丹波篠山市では、「丹波篠山観光まちづくり戦略」において、「2030宿泊者数倍増」といった中長期の具体的な目標を持って観光振興施策に取り組むこととしている。観光まちづくりを進めるうえで、この地域資源をつなげた観光ツアーの造成を面的に行うことで、観光客の滞在時間を延長させ、宿泊者数の増加にもつなげていく。

(継続的な民間企業の巻き込み)

観光まちづくりの新たな組織として、観光協会が中心となり、商工会や民間企業等で構成する組織「M a s s e (マッセ)丹波篠山」も誕生した。この組織では、滞在型の観光や移住も視野に入れた2拠点生活ツアーの造成や、市内の日本遺産構成文化財をめぐる観光パスポートの編集・販売などを行い、収益化を目指している。

さらに、構成文化財を所有、管理する団体や企業が、それぞれに保存・活用を行いながら収益に結びつけており、こうした取り組みを将来にわたって継続していくことにより、まちを活性化させていく。

併せて、伝統的建造物群保存地区に選定されている篠山城下町地区や福住地区などの日本遺産構成文化財では、古民家を活用したレストランや宿泊施設などの起業が多く、地域の大きなにぎわいの創造につながっている。それらを観光ルートや通訳ガイドにより、面的につなげ滞在時間の延長や再訪を促す。観光客が構成文化財に訪れることで直接的な収益となり、市は人材育成や普及啓発、情報発信により伴走支援することで、各構成文化財が魅力を増し、民間に収益が生まれるという好循環が生まれる。このように、日本遺産を通じた創造的なまちづくりを進めることにより、市民にとってはさらに誇りと魅力を感じることにつながり、観光客にとっては丹波篠山の文化や人々の暮らしが魅力的なものとして観光の目的となり、多くの観光客が訪れることにつながっていく。そして、観光産業の活性化により地域が潤い、新たな雇用が創出されることで移住や定住につながり、人口減少に歯止めがかかるという持続可能な好循環を創出し、日本遺産のまち・丹波篠山を未来へとつないでいく。

(2) 地域活性化のための取組の概要

丹波篠山市は、時代ごとの風土、名所、名産品などが歌詞に盛り込み歌い継がれてきた「丹波篠山デカンショ節」を日本遺産のストーリーとして、「①美しい町並みと農村景観」、「②歴史と文化、芸術」、「③命輝く自然環境」、「④丹波篠山人」、「⑤農の都、食の聖地」、といった魅力を地域の大切な資源と位置づけ、市民が誇りを持ち、市民が主役となったまちづくりを進める。そして、行政は市民活動や民間事業者の活躍を支援し、日本遺産に歌われる篠山の宝を、商工業や観光、農業に活かして持続的なまちづくりにつなげる。

(1) 「美しい町並みと農村景観」

① 魅力あるまちづくり

丹波篠山の農村景観は、自然豊かな緑の山並みを背景に近世の歴史的な町並みや農村的たたずまいを地域に色濃く継承しているという特徴がある。近世には「農村集落」に加えて、社会基盤を地域住民で作り維持された日本遺産デカンショ節で歌い継がれる篠山城とその周囲につくられた城下町、街道集落を母体とする「宿場町」、登り窯の「焼きものの里」等があり、近代・現代における社会の大きな変化にかかわらず、農業を基盤とした歴史的な町並みは大きく改変されることなく今に継承されている。農用地と共に保全・継承されてきた集落は、広がる田園の土地利用の中で山裾などに茅葺民家や灰屋、大屋根の寺院や酒造家の邸宅、鎮守などで構成する家並みを形成しており、背景の里山や柿の木、栗林などの残る集落景観は「日本の原風景」と形容されている。このような美しい町並みや農村景観は、観光資源となる大切な要素である。これらを保全・継承するとともに、景観の質を高めるよう計画する。

② 誇り・教育

農村地域では、新緑や紅葉といった里山景観や四季の田園景観を楽しみ、収穫体験などを通して旬の食を味わいながら、農村の原風景の残る丹波篠山で心豊かに過ごす若者や家族連れも見られる。今後も子供たちや市民が農村景観を保全し、誇りある景観まちづくりを推進する。

③ まちの活性化

- ・地勢や地域特性に応じた計画的な町並み景観と田園や里山景観を保全し、「農」の風景と調和する参画と協働の景観まちづくりを推進する。
- ・歴史的な町並みの残る地域では、町並みを保全・継承するとともに、町並み景観を観光資源として活用した空間づくりを目指す。
- ・農村地域では、農地や里山の保全維持に努めながら、広がる田園風景と里山や鎮守の森が調和し、周囲の環境に溶け込む景観まちづくりを推進する。
- ・駅やインターチェンジ周辺などの市街地では、周辺環境や連続した市街地景観と調和した賑わいと活気のある市街地を形成する。

【主な取り組み】

- ・良好な町並み景観保全・修景、町並みと調和した開発誘導や道路整備（成果指標：修景助成件数）
- ・景観重要建造物の指定（成果指標：景観重要建造物の指定件数）

（市民・事業者の役割）

- ・里山や農地等を適正に管理し、住宅地や市街地では人を迎える椅子・ベンチの設置や花や緑を育てるなど、景観を活用したまちづくりに積極的に取り組む。
- ・フォーラムや学習会等に景観やまちづくりに関する市や地域主催の取り組みに積極的に参加する。
- ・事業者は、行政や地域のまちづくり施策に協力し、良好な景観形成に取り組む。

（行政の役割）

- ・良好な景観形成に関する普及啓発及び情報発信を行う。
- ・市民の積極的な景観形成に関する取り組み支援、開発計画等への助言指導を行う。
- ・屋外広告物の修景整備や景観上重要な建造物等の保全のための支援を行う。
- ・公共施設の整備等にあたり周辺の町並み環境への配慮やおもてなし空間の充実、景観の質的向上に取り組む。

（2）「歴史と文化、芸術」

① 魅力あるまちづくり

丹波篠山市では、京の都の洗練された文化の影響を色濃く受けた歴史的な町並みや田園景観の中で受け継がれた曳山（ひきやま）祭礼や民俗芸能などの伝統行事、特産物や郷土料理、そして伝統工芸など、日本遺産「デカンショ節」でも歌い継がれるさまざまな伝統文化が継承されている。また、日本六古窯の丹波焼をはじめとして丹波杜氏、建築技法や農業技術などが丹波篠山独自の匠の技として受け継がれて、人々の暮らしと密接に関わりを持ちながら、長い時間をかけて育まれた。それらの多くは、地域の独自性の核であり、貴重な有形・無形の文化財として、大切に守り、活用されてきた。しかし、

特別な価値をもつ文化財のみに注目するだけでなく、市民の心のよりどころとして歴史文化が地域を元気にする原動力となる仕組み、人づくりが重要である。こうした歴史文化を背景としながら、次のような取り組みを通して、新たな価値を生み出す創造的な芸術活動を推進し、独創的な人材を育成するため環境を整えていく。

② 誇り・教育

市民が誇りを持ち、文化・教育を推進させるため、丹波篠山市の歴史文化を活かしたまちづくりに向け、地域と地域が面的に繋がり、効果的かつ持続的に発展する仕組み構築を目指す。

③ まちの活性化

- ・丹波篠山市文化財保存活用地域計画に基づき、計画的に歴史文化を活かしたまちの活性化を目指す。
- ・伝建地区の保存修理を促進し、保存地区の歴史的風致を高めることでまちの活性化を目指す。

【主な取り組み】

- ・デカンショ節保存会の支援・育成（成果指標：新規保存会員の入会者数）
- ・丹波篠山デカンショ祭開催、日本デカンショ節大賞の実施（成果指標：来場者数、応募者数）
- ・文化財の保全の支援と育成（成果指標：歴史文化を活かしたまちづくりに取り組む団体数）

（市民・事業者の役割）

- ・市民自らが身近な「歴史文化まちづくり資産」の保存・活用の主体として参画する。
- ・市民自らが地域に所在する歴史資料の調査を実施し、市史編纂に取り組む。

（行政の役割）

- ・関連計画や制度と連携し、指定文化財の保存・活用の充実・強化に努める。
- ・歴史文化を活かしたまちづくりに取り組む地域団体等の活動を支援するとともに、良好な事例を毎年積極的に顕彰させ、情報の共有化を図る。
- ・丹波篠山市の歴史文化を次世代に継承していくための団体や人材の育成を図る。

（3）「命輝く自然環境」

① 魅力あるまちづくり

デカンショ節で歌われている黒豆や猪などは、丹波篠山の自然環境の魅力が基盤とも言える。「丹波篠山は農産物が美味しいところ」、「黒豆といえば丹波篠山」、などといった地域イメージは、農産物だけでなく、豊かな田園風景や自然環境と一致し初めて「丹波篠山ブランド」（地域ブランド）となる。丹波篠山市の自然への環境に配慮する意義は、「田んぼや水路の過度なコンクリート化を進めて、丹波篠山をどこにでもあるような“普通の農村”にしない」という思いがある。子どもたちがふるさとに誇りを持てる環境教育を進め、自然豊かな田園風景を守ることは、中長期的に農家や市民にとって「まちの価値の向上」につながる。具体的には、環境保全型農業ではカエルやトンボなどの益虫が増え、安全安心な農地で作られることで農産物の評価が高まり、自然豊かな田園風景に憧れ、観光客や移住者の増加への期待も膨らむ。さらに、これからは「守る」だけでなく、まちづくりを上手に「活かす」ことで、まちのイメージ全体の向上にもつなげたい。これらは環境を守る思いを強めることになると考え、次のような取り組みを通して、丹波篠山市が持続可能なまちとなることを目指し、豊かな基盤となる自然環

境の再生まちづくりを目指す。

②誇り・教育

身近な自然である里山の荒廃、河川・水路のコンクリート化等により、生き物の生息状況が変化している。子どもたちをはじめ市民にとって自然の楽しさが減り、目を向ける機会や景観価値が低下しないよう、丹波篠山市の自然と魅力への誇りを高めていく。

③まちの活性化

- ・学校などと共に地域の特色を活かした環境教育・環境学習を促進し、環境を活かしてまちづくりを担える人財を育成する。
- ・自然環境や景観を資源と捉え、まちづくりに活かす。
- ・丹波篠山の自然が農林業の中で新しい価値を生むよう取り組む。
- ・森林の整備を促進するとともに、木材や木質資源としての活用を進める。
- ・森林整備を行う人材育成を進める。
- ・省エネルギーや再生可能エネルギーの利用促進により、低炭素社会の実現に向けて取り組み、持続可能なまちを構築する。

【主な取り組み】

- ・学校などと共に地域の特色を活かした環境教育・環境学習を促進
(成果指標：環境保全活動の実施主体数)
- ・ふるさとの川水路再生事業 (成果指標：川と水路の再生実施箇所数)
- ・森林の整備を促進し、木材や木質資源としての活用させる (成果指標：森林整備面積 (間伐))
- ・森林整備を行う人材育成プロジェクト (成果指標：森林保全の従事者数)

(市民・事業者の役割)

- ・環境問題に関心を持ち、環境をよくする活動に積極的に取り組む。
- ・豊かな自然や生き物を資源として保全し、まちづくりに活かす。
- ・森林を適切に管理し、木材や木質資源として身近な生活の中で利用。

(行政の役割)

- ・環境をよくしようとする人が集まる「協働の場」を設置し、協働による取り組みを促進、支援。
- ・自然環境や生き物を未来につなぐため、自然保護・再生活動に取り組むとともに、市民と自然との関わりを意識した環境整備。
- ・省エネルギーの取り組みや再生可能エネルギーの利用を積極的に啓発。
- ・計画的な森林整備のため、様々な支援策を構築するとともに、木材や木質資源の活用を促進。

(4)「丹波篠山人」

①魅力あるまちづくり

丹波篠山市の資源を守り、引き継ぎ、磨き上げるのは「人」である。丹波篠山では、京文化の影響を色濃く受けた生活様式の中で、豊かな自然や農業とともに生活をしてきた。しかし、人口減少、少子高齢化が進む中で、住み慣れた地域で助け合い、支え合えるまちを維持するためには、市民一人一人の助

け合いの意識を高める必要がある。丹波篠山の人は、こうした助け合いの気質がとて高く、コミュニティが維持されてきた。また、日本遺産「デカンショ節」に歌われる「福住の町並み」は、江戸時代、宿場町として多くの旅人をもてなしてきた心が今も引き継がれている。このことから、次のような取り組みを通して、おもてなしの気持ちを持ち、訪れる人も、新しく越してきた人も、子どもから大人まですべての人をやさしく包み込む、思いやりあふれる丹波篠山人を育むとともに、地域で生きる喜び、ふるさと丹波篠山を大切に作る心、誇りに思う気持ちを高めるよう進める。

② 誇り・教育

義務教育段階で、ふるさとの歴史や文化、自然や産業をしっかり学び、様々な体験を通じてふるさとを誇りに思う子どもたちを育むことが重要であり、学校・家庭・地域が連携してふるさと教育の推進に取り組む体制づくりをさらに推進する。また、令和28年から神戸大学の協力を得て、篠山イノベーションスクール（ローカルビジネススクール）が開講された。これまで受講生155名中28名（うち市内20名）が起業・継業し、10名（うち市内7名）が事業拡大した。日本遺産などの地域資源を活用した農業、古民家カフェ、飲食店、古民家を活かした民泊、工房を開業するなど、幅広い分野で、新たなビジネスが生まれつつあり、今後も農村の未来を創る人づくりを目指す。

③ まちの活性化

- ・歴史、生物、生活や特産などを学習する際の教材として「わたしたちの丹波篠山市」「丹波篠山ふるさとガイドブック」を活用し、地域学習に取り組むことで活性化を目指す。
- ・丹波篠山市の農産物は、多くの郷土料理の食材として広く使われてきた。この豊かな自然に育まれた丹波篠山の食文化を絶やすことのないように、郷土料理のテキストを活用し、伝える側、継承していく側、双方の食育力を高め活性化を目指す。
- ・郷土を学ぶ愉しさを様々な分野に求め、豊かな文化の継承と創造に取り組む講座や丹波篠山の歴史・文化・自然に触れ、魅力を知ることにより、郷土愛を育む現地学習会、郷土に伝わる古文書に親しみながら丹波篠山の歴史を学ぶ講座等を開講する。
- ・学校給食の食材供給に関わっている関係機関、団体等との連絡調整を密にするため「地元野菜生産者調整会議」を計画的に開催し、活性化に向けた生産計画に反映できる体制を整える。
- ・日本遺産を浸透させるために、地域の活性化を指導できる地域プロデューサーを育成する。

【主な取り組み】

- ・丹波篠山市民サポーターによる情報発信（成果指標：市民サポーター数・情報発信数）
- ・子どもたちが学ぶ喜びや地域と共に生きる喜びを実感する教育（成果指標：地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合〔全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙〕）
- ・市長による学校日本遺産出前講座（成果指標：丹波篠山デカンショ祭ジュニア競技会参加の団体数）
- ・丹波篠山市の文化講座「郷土愛を育む現地学習会、おもしろゼミナール、丹波篠山の歴史を学ぶ講座など」事業（成果指標：丹波篠山市の文化講座を受講して良かったとする受講者の割合）
- ・篠山イノベーションスクール「ローカルビジネススクール」人材育成（成果指標：受講生の内、起業家・継業者・事業拡大者の人数割合）

（市民・事業者の役割）

- ・子どもたちに地域の自然・歴史・伝統・文化に触れる機会を提供する。
- ・食を通して、丹波篠山という豊かな自然をいただいていることに対する感謝の心を育み、次世代へ郷土料理と共に心を伝える。
- ・丹波篠山の貴重な文化財を大切にだけでなく、自らその魅力を掘り起こす力を養う。
- ・事業者は、学校給食に対して野菜などの食材を安定して供給できる体制を構築し、市民は、学校給食の献立を通じて、家庭においても地産地消を積極的に進める。

(行政の役割)

- ・地域資源の発掘と教材化を進めるとともに、発達段階に応じた教育課程を編成する。
- ・地元食材を守り、育て、活用し、食育を高めるための機会の場を提供し、情報を発信する。
- ・郷土の貴重な文化財の新たな魅力や価値観を見だし、常に新しい情報を発信する。
- ・学校給食センターでは、地元で生産された食材を利用した伝統食の献立や新しい献立を考案し、食材を積極的に使用する。

(5)「農の都、食の聖地」

①魅力あるまちづくり

丹波篠山の農と食の強みを生かし、観光客の滞在時間の延長、宿泊日数の増加を目指すため、丹波篠山市内では観光協会や商工会、民間企業等で構成する「M a s s e 丹波篠山」、市民、行政がともに協力し合い、新たな観光まちづくりを推進することで誘客を促進する。関係人口や移住の創出を図る取組を実施させ、先人から受け継がれてきた自然、歴史、文化資産とその背景にある丹波篠山を代表する、日本遺産「デカンショ節」でも歌われる黒豆等の農産品、建築、陶芸、商いなどの「暮らしに結びついた産業」を次世代に継承し活性化を目指す。

また、丹波篠山の農業は、農産物を生産し食料を供給するだけでなく、全国に名を馳せる黒大豆「丹波黒」を生み出し、その大きさや形、品質などの価値が認められるとともに、丹波篠山市の知名度やイメージ向上に大きく貢献し、令和3年2月19日、丹波篠山市は「日本農業遺産」に認定された。これは先人の努力により、長い年月を掛けてなして得てきたもので、厳しい環境のなか、農民の努力によって培われてきた。国登録有形文化財である小田垣商店や鳳鳴酒造は地元でつくられた米、黒豆を使用し、引き継ぐ伝統的な農と食の技術の歴史が今も受け継がれている。これは丹波篠山の強みである自然、伝統と歴史、景観の魅力と共に、特産物の魅力の発信と、まちの活性化に取り組んでいく。

②誇り・教育

外国人に丹波篠山の文化や市民の本質に触れてもらうことを通して、市民自らもその価値を再確認し、自らの文化や地域を誇りに思うことが求められており、これに答えられる充実した観光推進を目指す。

また、黒大豆、山の芋など先人が育ててきた伝統的な特産農産物はまちの誇りである。単なる食材に留まらず、観光客を惹きつける地域ブランドとなる経済波及効果もある。この地域ブランドとして誇りである特産品を維持するために、特産品の品質向上・安定生産・消費拡大を図る。

③まちの活性化

- ・絶えずインバウンドの動向を注視しながら、観光客の受け入れ態勢の整備や施策を行う。
- ・海外旅行者やメディアに対し、民間企業も巻き込んだ積極的なPRを行う。

- ・市、各種団体、市民が連携して誘客を図り、観光消費額を向上させまちの活性化を目指す。
- ・丹波篠山の地の利と資源を活かした観光を提供し、お客さまをもてなす。
- ・農家の農業離れが進み、担い手の不足が叫ばれています。将来にわたって農業を維持していくために、農業に携わる人を掘り起こし、農業のビジョンである「人・農地プラン」を通して、みんなが将来像を共有できる活性化を目指す。
- ・企業労働者の定年が65歳まで延長され農業従事者の減少が予想されるなか、経営感覚に優れた認定農業者などの農家育成や集落営農の組織化・法人化を進め、これらの担い手農家が地域の水田農業を支えていく体制をつくる。
- ・小規模農家や家族経営農家が、安心して経営が継続できるよう、集落や地域が一体となった集落営農活動を充実させ活性化させる。
- ・大規模経営農家と小規模・家族農家、集落営農組織が連携し、集落・地域の農地を守り、特産物を生産していく体制づくりを目指す。
- ・黒大豆など伝統的な農産物の品質向上と生産量を維持するため、栽培の省力化や作業の機械化によるまちの活性化を目指す。

【主な取り組み】

- ・M a s s e丹波篠山の組織整備（成果指標：日本遺産のためのふるさと納税額）
- ・観光地魅力度調査（成果指標：地域コンセプトの浸透度）
- ・明日の丹波篠山観光ビジョン会議（成果指標：丹波篠山認知度〔地域ブランド調査報告書〕）
- ・民間事業等（一般社団法人ウイズささやま、一般社団法人ノオトなど）による日本遺産ツアー、M a s s e丹波篠山による観光パスポート事業（成果指標：観光入込客数、宿泊者数）
- ・日本遺産構成文化財を活用した小田垣商店の店舗古民家活用、鳳鳴酒造の酒造見学やデカンショ踊り体験、丸山集落の古民家活用、丹波立杭陶磁器協同組合での登り窯イベント（成果指標：観光入込客数、宿泊者数）
- ・日本遺産構成文化財での周遊インバウンド誘客にむけたツアー造成（成果指標：外国人観光客数）
- ・丹波篠山認定ローカルガイド養成事業（成果指標：ガイド養成講座修了者の活動者数）
- ・普及パンフレットの作成、多言語整備、説明看板の設置（成果指標：外国人観光客数）
- ・宿泊施設の整備、充実支援（成果指標：宿泊者数）
- ・観光情報サイトやSNSを活用した情報発信（成果指標：観光情報サイトのPV数）
- ・農業の育成と支援（成果指標：認定農業者数）

（市民・事業者の役割）

- ・誘客に向けた魅力的な滞在コンテンツを造成する。
- ・日本遺産を活かした積極的かつ持続可能な観光産業の取組を実施する。
- ・農業後継者や集落の新規就農者の確保に努める。
- ・特産作物のブランド維持のため農産物の品質と栽培技術の向上を図る。
- ・大規模経営農家と集落組織等が連携し、集落の農地を守り育てる取り組みを進める。

（行政の役割）

- ・インバウンド観光客に向けたローカルガイドを募り、ガイド人材を育成する。
- ・インバウンドに向けた多言語看板を整備する。
- ・集落住民と県や農業者団体と協働して担い手の確保・育成を進める。
- ・新たに農業に参入する人材の確保や次世代の農業を担う人材育成を進める。
- ・黒大豆などの種苗保護や品質向上に取り組むとともに効率的な栽培方法の普及を進める。

(3) 自立的・継続的な取組

日本遺産を保存活用しようとする市民や民間事業者の活動を支援することで、市民の誇りの醸成と民間による収益化につなげる。

市は、人材育成や普及啓発、情報発信などを行うことで、市民や民間企業の活躍を促進する。市民には誇りが生まれ、民間企業には収益が生まれるという持続可能な観光振興へつなげる。

○日本遺産の地域への浸透

毎年8月15日、16日に開催するデカンショ祭は、市民だけでなく老若男女が楽しむ関西最大の民謡の祭典であり、丹波篠山市民にとってはかけがえのないものである。

このデカンショ節は、400番以上の歌詞があり、今もなお新しい歌詞が生まれているという特徴がある。

歌詞を一般公募する「デカンショ節大賞」には子どもから大人まで多数の応募があり、審査により新しい歌詞が選ばれ、デカンショ祭はその歌詞の歌唱から始まる。丹波篠山の日本遺産のストーリー内容は、このように市民の公募により新しく増えていく仕組みになっており、市民の現在の日常や文化をもとにした新しい歌詞が生まれることで、市民にはさらなる誇りとなり、日本遺産のストーリーが未来へ歌い継がれていく。つまり、デカンショ節は過去を現在に、現在を未来に伝えるものである。

○民間企業等による収益化

日本遺産構成文化財である篠山城（大書院）および安間家史料館の指定管理者である一般社団法人ウイズささやまは、過去に「日本遺産モデルツアー」の実施と効果検証をしており、その経験を活かし収益化にさせるべく観光業を取得した。今後、日本遺産ツアーや体験コンテンツの造成による収益化に取り組んでいく。

観光協会が中心となり、商工会、一般社団法人ノオト、一般社団法人ウイズささやまなどの民間企業が横断的に連携し「M a s s e 丹波篠山」を組織した。今後、観光まちづくり組織として観光パスポート事業に取り組むほか、滞在型の観光や移住も視野に入れたツアーや体験コンテンツの造成などを行う。

○日本遺産構成文化財を活用した観光誘客

構成文化財を所有、管理する団体や企業がそれぞれすでに保存活用を行っており収益に結びつけている。

黒豆を扱う小田垣商店は、杉本博司氏監修のもと古民家の店舗に大掛かりな改修を加えており、国内外からの誘客を推進する。

鳳鳴酒造は、大手旅行会社による日本遺産をテーマとしたツアーの訪問先になっており、参加者から

好評を得ている。酒蔵見学とあわせて、デカンショ踊り体験を実施し収益化につながっている。また有名なテレビドラマの原作にも取り上げられ、注目を浴びており、日本遺産との相乗効果による誘客も期待できる。

集落丸山は、一棟貸しの宿泊施設である。限界集落での古民家活用事業により雇用も生まれている。移住者によるレストランや蕎麦屋さんも人気を博している。

850年前から伝わる丹波焼は、現在も60余の窯元が伝統を継承している。丹波立杭陶磁器協同組合が、産地のシンボルとして登り窯を保存活用している。登り窯を活用したイベントや、路地歩きガイドツアーを実施し、構成文化財の保存活用を行う。

○日本遺産構成文化財での面的周遊とインバウンド誘客

伝統的建造物群保存地区に選定されている篠山城下町地区や福住地区などの日本遺産構成文化財では、古民家を活用したレストランや宿泊施設などの起業が多く、地域の大きなにぎわいの創造につながっている。それらを観光ルートや通訳ガイドにより、面的につなげ滞在時間の延長や再訪を促す。観光客が構成文化財に訪れることで直接的な収益となり、市は人材育成や普及啓発、情報発信により伴走支援することで、各構成文化財が魅力を増し、民間に収益が生まれるという好循環が生まれる。

○ふるさと納税の活用

日本遺産構成文化財の保存活用に取り組むことで、関係人口を増やすとともに、観光誘客につなげるために、ガバメントクラウドファンディング制度（ふるさと納税の寄付金の「使い道」をより具体的にプロジェクト化し、そのプロジェクトに共感した方から寄付を募る仕組み）などを利用する。

○継続的な地域の担い手の育成

デカンショ節保存会等の団体、構成文化財はじめデカンショ節に歌われる丹波篠山の一つ一つの要素を引き続き担う個人、団体、地域の担い手育成に努める。

- ・デカンショ節保存会支援、農業担い手育成と集落営農促進、丹波焼陶工支援
- ・重要伝統的建造物群保存地区のまちなみ保存会などと連携した町並みと景観の保全
- ・観光関連事業の造成、誘客を図る事業体の支援

（４）構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

丹波篠山で長く愛され歌い継がれてきた民謡「デカンショ節」をはじめとして、「デカンショ節」の歌詞の世界を体現する15の文化財が日本遺産のストーリーの構成文化財となっている。

これらは指定文化財だけでなく未指定の文化財が含まれているが、丹波篠山市では平成23年策定の「歴史文化基本構想」において市内全ての文化財を「歴史文化まちづくり資産（歴史資産）」と位置づけ、地域総がかりで保存・活用に取り組んできた。平成23年から継続的に「地域の歴史文化活かしたまちづくり事業」を実施し、地域主体の人材育成・普及啓発・保存・活用事業に対して支援を行っており、市民自ら歴史資産を発見し、学び、保存し、活用するという好循環を生み出し、日本遺産の保存・活用の促進する基盤づくりに寄与している。なお、同事業はふるさと納税を活用している。

本市の歴史資産の保存・活用の取組の特徴として、古民家再生に代表される多種多様な主体による歴

史的建造物の保存・活用の取組がある。契機となったのは、構成文化財の一つである篠山城下町地区の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）選定であり、町並み景観の保全魅力増進が進むにつれて、伝統的建造物の空き家を活用した店舗、宿泊施設の事例が増え、文化財の活用が保存につながるという新たな好循環を生み出した。また、まちなみアートフェスティバルや丹波篠山ひなまつりなど、市民主体の取組が活発化し、さらなる魅力増進と来客増加につながっている。平成24年には、福住地区で本市2地区目の重伝建選定があり、同地区でも篠山地区と同様に伝統的建造物の活用事例が増え、人口減少地域である同地区において移住者が増加しつつあり、城下町同様に市民主体の取組も増加している。面的な広がりをもった2つエリアが観光拠点に新たに加わったことで、本市の魅力増進や観光客誘致に大きく貢献している。

重伝建地区以外での活用事例として、丸山集落の取り組みが挙げられる。限界集落寸前だった集落の伝統的な農家住宅を改修し、宿泊施設にすることで、住民自らそこで収益を上げながら、建物と集落を維持するという、全国的にも稀有な好事例となった。また、篠山城下町の重伝建地区外に位置する、小田垣商店と鳳鳴酒造という2つの登録文化財があるが、黒大豆と地酒という本市の特産を古くから商いし、収益を上げながら、文化財建造物を維持している。両店舗とも、伝統を重んじながら、新たな商品開発に余念がなく、創造農村である本市の代表的な存在となっており、魅力増進に大きく寄与している。

本市ではこれらの取組を持続的に発展させるため、令和3年に文化財保存活用地域計画を作成し、同年に文化庁の認定を目指している。同計画は、歴史文化基本構想の理念を踏襲しつつ、より具体的なアクションプランとし、これまで以上に歴史資産の保存・活用、担い手の育成など、総合的に取り組むこととしている。これらを実現するための財源として、市費に加えて国・県費の活用も想定しているが、より持続的に実現していくためには、市独自の財源を確保することが重要である。

今後、日本遺産を通じた地域活性化の取り組みを進めることにより、丹波焼の里（今田町）や八上城跡など本市の全域的な周遊観光を促進し、滞在時間の延長と観光消費額の増加、さらにはふるさと納税額の増加を目指し、構成文化財を含めた本市の歴史資産の保存・活用のための財源の確保を図る。また、日本遺産に関連する旅行ツアーや商品を開発、販売することにより、構成文化財に収益を分配できる仕組みを構築し、さらなる保存・活用、担い手の育成につながることを目指す。

（５）他の観光施策との連携

（１）日本遺産関係の施策以外の観光振興施策との連携

丹波篠山市は、「日本遺産」に認定されているほか、「ユネスコ創造都市ネットワーク」への加盟や「日本農業遺産」の認定、景観モデル都市として全国10都市の1つに選定されるなど、全国に誇れる魅力を持っている。「日本遺産」とこれらの魅力をかけ合わせることで、相乗効果が得られるような観光振興施策を展開し、「丹波篠山観光まちづくり戦略」の目指す将来像でもある「地域が潤うまち 丹波篠山」の実現を目指す。

○「ユネスコ創造都市ネットワーク」加盟による観光振興

丹波篠山市は平成27年12月、「ユネスコ創造都市ネットワーク」のクラフト&フォークアート部門（工芸・民俗芸能）に加盟が認められた。これは、丹波焼をはじめとする丹波篠山のものづくりの歴史や文化が世界的に認められたもので、現在、世界の加盟都市との交流を深めているところである。今、

丹波篠山市には、「都会にはない『豊かさ』がある。この地の環境で感性が磨かれる」と、工芸家や芸術家の移住が進み、それぞれの交流やつながりも深まりつつある。このような動きの中で、かねてから行われてきた歴史ある町並みを美術館に見立てた「まちなみアートフェスティバル」や、文化ホールでの市民手作りの「ミュージカル」に加え、工芸家の工房巡りイベントの開催や工芸家マップの作成による工芸体験情報の発信など、新たなクラフト&フォークアートのまちとしてのイメージを広げ、新たな客層の誘客につなげる。

○「日本農業遺産」認定による観光振興

丹波篠山市は令和3年2月19日、「丹波篠山の黒大豆栽培～ムラが支える優良種子と家族農業～」が「日本農業遺産」に認定された。これは、丹波篠山の黒大豆栽培の歴史や地域ぐるみで培った方法などが評価されたものであり、これからも伝統を守りながら生産に励み、全国に丹波篠山の食を届けることとしている。そこで、「農の都」「食の都」づくりを進めることにより、市民も丹波篠山に魅力を感じる人々も、愛着を感じるようなまちづくり（丹波篠山ファンづくり）に努める。「食」は訪れる観光地を決める大きな要素でもあるので、黒豆や山の芋、栗などの特産物、ぼたん鍋などの郷土料理の効果的な魅力発信に取り組むほか、丹波篠山が誇る農産物の海外展開や新たなご当地グルメの開発・PRにも取り組む。また、消費者と農家、そして地域の「三方よし」を実現する観光形態として注目されている「農村ツーリズム」の推進や農家民宿の支援などにより誘客を進める。

○景観を活かした観光振興

丹波篠山市の城下町や宿場町の佇まい、田園風景や集落景観、盆地をなす緑の稜線などの景観は高く評価されている。平成29年3月には「景観まちづくり刷新モデル地区」に選定され、平成29年度から令和元年度までの3年間で、国の景観まちづくり刷新支援事業を活用し、篠山城跡から商店街につながる目抜き通りと重要伝統的建造物群保存地区に指定されている河原町通りの電柱の地中化や、観光拠点施設「大正ロマン館」の外観修景、プロムナード（舗道）の整備などを実施し、観光客を迎え入れる見事な景観刷新を成し遂げた。今後は、景観計画等により計画的な景観保全・修景に取り組むとともに、「より質の高い景観形成や環境整備」を図り、市民にとっては日々の暮らしの中で、また、観光客にとっては非日常的な空間の中で、今日まで保全・継承されてきた町並みや景観を「味わい、楽しみ、活用できる」ような観光まちづくりを行っていく。

○環境を活かした観光振興

丹波篠山には、四季の移ろいを楽しませてくれる山々、そして、その裾野に広がる田園、清らかな水が流れる川や澄んだ空気、さらには、ホタルが飛び交う地域や星空が楽しめる地域など、魅力的な環境や地域が数多くある。また、地域のまつりや伝統行事、お能など、貴重な伝統文化も今に伝えられている。このような自然環境や伝統文化など、地域固有の魅力を観光客らに伝えることにより、その価値や大切さが理解され、誘客とともに保全につながっていくような仕組み「エコツーリズム」の推進に取り組む。さらに、自然や町なみなどを楽しみながら、健康増進にもつながるといって近年のブームともなっているトレッキングやサイクリングのコース設定や充実も行っていく。

(2) 各種計画における日本遺産の位置づけ

第3次丹波篠山市総合計画においては、6つの基本目標の1つ「丹波篠山ブランドを創り、活かすまちづくり」を進めるため、「日本遺産、創造都市をまちづくりに活かす」ことを掲げ、また、総合計画

におけるこの基本目標の詳細を示すものとして、「～日本の宝石 Wakuwaku都市（シティ）～丹波篠山ブランド戦略」を位置づけている。この戦略において「日本遺産」は、5つの宝石の1つとして掲げている「歴史文化、芸術」の中で、デカンショ節の歌詞に歌われた丹波篠山の人々の暮らしを通して、さまざまな構成文化財や人情など、あらためて丹波篠山の宝を見つめなおし、ストーリー性を持った発信を心がけ、丹波篠山の魅力を伝えていくこととしている。さらに、丹波篠山市の観光振興施策を進める上での羅針盤ともなる「丹波篠山観光まちづくり戦略」において「日本遺産」は、観光振興施策の4つの柱の1つ「ブランド力／目指すのは、ふるさと日本一、世界一のまち」の中で、「日本遺産」を盛り上げ、日本一、世界一のふるさとを目指すことを明記している。

丹波篠山市における「日本遺産」の位置づけは、まちづくり、ブランド創造、観光振興、いずれの取組においても貴重な資源（コンテンツ）であり、これまでも、そして、これからも市民の誇りとして継承し、磨き上げ活用していく宝石の1つである。

(6) 実施体制

(1) 事業主体

○丹波篠山市日本遺産・創造都市推進委員会

丹波篠山市では、「デカンショ節」と「六古窯（丹波焼）」の2つの日本遺産を活かして、市民のまちへの愛着と誇りを育み、地域の活性化につなげるため、下記の団体で構成する「丹波篠山市日本遺産・創造都市推進委員会」が本計画の主体となって、日本遺産の推進事業や創造的なまちづくりを進めていく。

【構成メンバー】

丹波篠山市商工会、丹波立杭陶磁器協同組合、丹波ささやま農業協同組合、丹波篠山観光協会、丹波杜氏組合、丹波篠山市女性委員会、丹波篠山市自治会長会、福住まちなみ保存会、篠山まちなみ保存会、丹波篠山市小学校長会、NPO法人 集落丸山、知識経験者

(2) 取組を円滑に行うための協力団体

①「構成文化財等の保存、継承」グループ

令和3年度に「丹波篠山市文化財保存活用地域計画推進協議会」を設置することとしており、市民・行政・専門家による役割分担のもと、一体となって歴史資産の保存・活用や、担い手育成などの事業を進める。

構成メンバーには、市教育委員会のほか、まちづくり協議会、まちなみ保存会等が含まれ、本計画における「構成文化財等の保存、継承」に取り組む分科会の役割を果たす。

②「日本遺産を活かした観光」グループ

商工や観光、文化財に関わる団体や企業がそれぞれに日本遺産を活かした観光誘客を行う。また、これらの団体で構成する「M a s s e丹波篠山」が設立しており、日本遺産を活かした誘客ツアーの造成や市内の地域資源を巡回できるパスポートの編集・販売など、観光まちづくり事業を進める。

構成メンバーには、丹波篠山市商工会、丹波篠山観光協会、一般社団法人ウイズささやま、株式会社アクト篠山、株式会社NOTEが含まれており、本計画における「日本遺産を活かした観光」に取り組む分科会の役割を果たす。

(7) 地域活性化計画における目標と期待される効果

期待される効果	<p>本計画の目標として、丹波篠山市における2030年度の宿泊者数を約24万人とする長期目標があることから、向こう3年間の短期的な目標として目標Ⅰを設定する。次に市内19地区すべてが輝く丹波篠山市の実現」を目指し、目標Ⅱを設定する。最後に集客と地域再生の取り組みを持続的に進めて好循環を創り出すため、目標Ⅲを設定する。</p> <p>これら目標に向けて取り組みをすすめることで、訪れる人が心から喜び、市民が誇りをもって安心して暮らせ、魅力ある産業を創出させ雇用と働く場をつくることができる。さらに移住・定住につなげることで、丹波篠山市全体や市を構成する地域社会が持続可能で未来につながっていくことを期待する。</p> <p>イメージとしては、誇りを育み、様々な課題を創造的に解決していく中で、新たな価値、特産、誇りを織り込んだ新しいデカンショ節に乗せて、子や孫が夜更けまで踊るデカンショ祭りの開催である。</p> <p>目標Ⅰでは、日本遺産旅行商品の造成・販売を行うことで、観光客はその時代ごとの風土や人情、名所、名産品を味わえ、日本遺産のストーリーを体験できる。また、多言語対応等の体制を強化することで、高単価設定のインバウンド向け旅行商品の造成・販売ができるため、訪日外国人観光客数の増加が見込まれ、持続的に地域が潤う仕組みにつながる。さらには、日本遺産を活用した集客により、観光客入込客数の増加、宿泊者数の増加、観光消費額の増加を期待している。</p> <p>目標Ⅱでは、市域全体の取り組みに止まらず、19の地区に着目した文化財の保存と活用を進め、暮らしの場を起点とした郷土への愛着と誇りを育みつつ、構成文化財への理解や活用、新たな資源発掘に努め、主体的かつ持続的取り組む19地区がそれぞれの個性を活かしつつ、コロニーのような観光拠点、生活拠点となっていることを期待している。</p> <p>目標Ⅲでは、観光協会や商工会、民間企業等で構成する「M a s s e丹波篠山」を中心となる取り組みを支援しつつ、「M a s s e丹波篠山」の法人化や持続的な事業展開など、観光産業をけん引する存在となることを目指す。また、市民は、市主催のローカルガイド養成講座に積極的に参加したり、デカンショ節保存会や丹波焼陶工のように、自らが講師となって市民や観光客に伝統芸能や伝統技術を伝授したりして日本遺産のまち・丹波篠山を大いに盛り上げている状況となっていることを期待している。</p>
---------	--

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化						
観光客入込み数		具体的な指標：観光入込客数（千人）				
年度	実績			目標		
	平成29年	平成30年	令和元年	令和3年	令和4年	令和5年
数値	1,748	1,749	2,025	1,484	2,031	2,065
目標値の設定の考え方 及び把握方法	丹波篠山観光まちづくり戦略による目標数値。観光庁「共通基準による観光入込客統計」による丹波篠山市独自調査。					
関連事業						

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化						
外国人観光客数		具体的な指標：外国人観光客数（千人）				
年度	実績			目標		
	平成29年	平成30年	令和元年	令和3年	令和4年	令和5年
数値	8.1	13.1	10.8	10.0	13.3	16.6
目標値の設定の考え方 及び把握方法	丹波篠山観光まちづくり戦略による目標数値。外国人宿泊客数からの推計値					
関連事業						

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化						
[計画評価指標]		具体的な指標：宿泊者数（千人）				
年度	実績			目標		
	平成29年	平成30年	令和元年	令和3年	令和4年	令和5年
数値	132	122	114	91	175	183
目標値の設定の考え方 及び把握方法	丹波篠山観光まちづくり戦略による目標数値。宿泊施設への聞き取り調査。					
関連事業						

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化						
[計画評価指標]		具体的な指標：観光消費額（百万円）				
年度	実績			目標		
	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
数値	15,712	15,483	17,790	12,831	18,874	19,774
目標値の設定の考え方及び把握方法		丹波篠山観光まちづくり戦略による目標数値。兵庫県による観光消費額調査から観光消費額単価を割り出し、観光入込客数に乗じた金額				
関連事業						

設定目標Ⅱ：日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化						
地域の文化に誇りを感じる住民の割合		具体的な指標：住んでいる地域に愛着や誇りを感じる住民の割合（％）				
年度	実績			目標		
	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
数値	63.0	68.8	69.2	69.8	70.1	70.4
目標値の設定の考え方及び把握方法		令和元年度 69.2%を基準とし、令和 5 年度までに 70.4%、毎年度 0.3%の増の達成を設定。「兵庫のゆたかさ指数」の動向（住んでいる地域に愛着や誇りを感じる住民の割合（％）：丹波地域（丹波篠山市）				
関連事業						

設定目標Ⅲ：日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立						
[計画評価指標]		具体的な指標：日本遺産のためのふるさと納税額（千円）				
年度	実績			目標		
	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
数値	5,432	3,626	2,514	3,896	3,935	3,974
目標値の設定の考え方及び把握方法		平成 29 年度～令和元年度の「日本遺産のまち魅力発信に関する事業」として寄付いただいたふるさと納税額の平均から毎年度 1%の増の達成を設定。使い道が「日本遺産のまち魅力発信に関する事業」として寄付いただいたふるさと納税額。				

関連事業	
------	--

設定目標Ⅳ：その他						
[計画評価指標]		具体的な指標：				
年度	実績			目標		
	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
数値						
目標値の設定の考え方 及び把握方法						
関連事業						

(8) 地域活性化のために行う事業

(8) - 1 組織整備

(事業番号 1 - ①)

事業名	丹波篠山市民サポーター		
事業内容	市民サポーター制度を実施し、日本遺産丹波篠山の魅力を広く口コミなどでアピールするサポーター数の増加を図る。		
実施主体	市民、丹波篠山市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	市民サポーター	具体的な指標	市民サポーター数(人)
実績値	平成29年度： -	平成30年度： -	令和元年度： -
目標値	令和3年度： 30	令和4年度： 40	令和5年度： 50
事業費	令和3年度： 0	令和4年度： 0	令和5年度： 0

(事業番号 1 - ②)

事業名	「Masse 丹波篠山」組織整備		
事業内容	「Masse 丹波篠山」は観光協会、商工会、民間企業等で構成設立し、各団体の横断的な連携で観光まちづくりを推進していく。具体的には①行政連携・調査研究 ②滞在ツアー、送客の実施 ③丹波篠山パスポート編集販売などを実施し地域活性化を推進する。なお、財源はふるさと納税を活用した魅力あるふるさとづくりを進める。		
実施主体	Masse 丹波篠山、丹波篠山市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	ふるさと納税額	具体的な指標	日本遺産のためのふるさと納税額(千円)
実績値	平成29年度： 5,432	平成30年度： 3,626	令和元年度： 2,514
目標値	令和3年度： 3,896	令和4年度： 3,935	令和5年度： 3,974
事業費	令和3年度： 2,000千円	令和4年度： 2,000千円	令和5年度： 2,000千円

(8) - 2 戦略立案

(事業番号2-①)

事業名	観光地魅力度調査		
事業内容	観光地にて旅行者の動機や周遊ルート、観光費用等の顧客データを収集、地域ごとの訪問客の属性等の傾向を分析し、地域における観光商品やサービスに対する評価を踏まえ、今後の対策に活かす。		
実施主体	ひょうご観光本部、丹波篠山市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	地域コンセプトの浸透度	具体的な指標	地域コンセプトの浸透度 (%)
実績値	平成29年度： -	平成30年度： -	令和元年度： -
目標値	令和3年度： 70	令和4年度： 75	令和5年度： 80
事業費	令和3年度： 0	令和4年度： 0	令和5年度： 0

(事業番号2-②)

事業名	明日の丹波篠山観光ビジョン会議		
事業内容	事業番号2-①観光地魅力度調査の結果等を共有し、明日の丹波篠山観光ビジョン会議にて、丹波篠山の地域コンテンツの認知度（地域ブランド調査報告書）を上げるよう、地域の未来像を話し合う。		
実施主体	Masse 丹波篠山、丹波篠山市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	地域ブランド調査報告書	具体的な指標	丹波篠山市の地域コンテンツの認知度（世界遺産や日本遺産）
実績値	平成29年度： -	平成30年度： 0.9	令和元年度： 0.6
目標値	令和3年度： 0.9	令和4年度： 1.0	令和5年度： 1.1
事業費	令和3年度： -	令和4年度： -	令和5年度： -

(8) - 3 人材育成

(事業番号3-①)

事業名	デカンショ節保存会の支援・育成		
事業内容	構成文化財であるデカンショ節を伝承する保存会の高齢化が進んでいることから、地方（じかた）、踊り、それぞれの分野における若手後継者の育成と活動の支援を行う。		
実施主体	丹波篠山デカンショ節保存会、丹波篠山市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	日本遺産を後世に繋ぐ取組	具体的な指標	新規保存会員の入会者数
実績値	平成29年度： 1	平成30年度： 3	令和元年度： 0
目標値	令和3年度： 5	令和4年度： 5	令和5年度： 5
事業費	令和3年度： 300千円	令和4年度： 300千円	令和5年度： 300千円

(事業番号3-②)

事業名	文化財の保全の支援と育成		
事業内容	歴史文化を活かしたまちづくりに取り組む地域団体等の活動を支援するとともに、良好な事例を毎年積極的に顕彰することにより、情報の共有化を図る。		
実施主体	丹波篠山市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	歴史文化を活かしたまちづくりに取り組む団体	具体的な指標	歴史文化を活かしたまちづくりに取り組む団体数(団体)
実績値	平成29年度： 11	平成30年度： 13	令和元年度： 17
目標値	令和3年度： 14	令和4年度： 15	令和5年度： 16
事業費	令和3年度： 2,000千円	令和4年度： 2,000千円	令和5年度： 2,000千円

(事業番号 3-③)

事業名	篠山イノベーターズスクール（神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ〔ローカルビジネススクール〕）事業		
事業内容	市民をはじめ多くの関係者が、農村で新しい価値を見つけ、仲間や地域とネットワークをつくり、市内などでビジネスとして起業・継業するため、農村ビジネスの実践、ノウハウ、必要な理論や知識を学べるよう、人材育成を進める。		
実施主体	市民、丹波篠山市、神戸大学		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	起業者・継業者・事業拡大者の人数割合	具体的な指標	受講生の内、起業者・継業者・事業拡大者の人数割合（％）
実績値	平成29年度： 24%	平成30年度： 24%	令和元年度： 24%
目標値	令和3年度： 25%以上	令和4年度： 25%以上	令和5年度： 25%以上
事業費	令和3年度： 13,000千円	令和4年度： 13,000千円	令和5年度： 13,000千円

(事業番号 3-④)

事業名	丹波篠山認定ローカルガイド養成事業		
事業内容	インバウンド受け入れ体制の強化のため、日本遺産や、丹波篠山の歴史文化、丹波篠山の魅力を紹介しながら案内する「ローカルガイド」を継続的に育成する。		
実施主体	市民、丹波篠山市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	地域プレーヤー数	具体的な指標	ガイド養成講座修了者の活動者数（人）
実績値	平成29年度： —	平成30年度： —	令和元年度： —
目標値	令和3年度： 10	令和4年度： 16	令和5年度： 24
事業費	令和3年度： 300千円	令和4年度： 300千円	令和5年度： 300千円

(事業番号 3-⑤)

事業名	農業の育成と支援		
事業内容	新たに農業に参入する人材の確保や次世代の農業を担う人材育成を進める。		
実施主体	市民、丹波篠山市		
事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	地域プレーヤー数	具体的な指標	認定農業者数
実績値	平成 29 年度 : 27	平成 30 年度 : 49	令和元年度 : 52
目標値	令和 3 年度 : 54	令和 4 年度 : 56	令和 5 年度 : 58
事業費	令和 3 年度 : -	令和 4 年度 : -	令和 5 年度 : -

(事業番号 3-⑥)

事業名	森林整備を行う人材育成プロジェクト		
事業内容	日本遺産の構成文化財である八上城(高城山)に隣接する森林において、木の伐採方法などを調べる講習会を開催し、将来にわたって日本遺産のまちの景観保全(構成文化財)に携わる人材を育成する。		
実施主体	市民、丹波篠山市		
事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	森林保全の従事者数	具体的な指標	森林保全の従事者数
実績値	平成 29 年度 : -	平成 30 年度 : -	令和元年度 : -
目標値	令和 3 年度 : 30	令和 4 年度 : 30	令和 5 年度 : 30
事業費	令和 3 年度 : 780 千円	令和 4 年度 : 780 千円	令和 5 年度 : 780 千円

(8) - 4 整備

(事業番号 4 - ①)

事業名	普及パンフレット作成、構成文化財の多言語整備、説明看板設置		
事業内容	インバウンド受け入れ体制の強化のため、普及パンフレット、多言語整備、説明看板設置を実施する。		
実施主体	丹波篠山市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	外国人観光客数	具体的な指標	外国人観光客数(千人)
実績値	平成29年度: 8.1	平成30年度: 13.1	令和元年度: 10.8
目標値	令和3年度: 10.0	令和4年度: 13.3	令和5年度: 16.6
事業費	令和3年度: 396千円	令和4年度: 396千円	令和5年度: 396千円

(事業番号 4 - ②)

事業名	日本デカンショ節大賞事業		
事業内容	デカンショ節を後世に歌い継ぐ取り組みとしてデカンショ節の歌詞の募集し、新たなデカンショ節を未来へつないでいく。		
実施主体	デカンショ祭振興会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	日本遺産を後世に繋ぐ取組	具体的な指標	日本デカンショ節大賞応募数(件)
実績値	平成29年度: 458	平成30年度: 191	令和元年度: 326
目標値	令和3年度: 400	令和4年度: 450	令和5年度: 500
事業費	令和3年度: 60千円	令和4年度: 60千円	令和5年度: 60千円

(事業番号 4 - ③)

事業名	良好な町並み景観保全・修景、町並みと調和した開発誘導や道路整備		
事業内容	丹波篠山の歴史的な町並み・沿道景観の保全、地域の景観づくりの核となる建造物等の保存、無電柱化により景観を活かした地域の自主的な景観と観光まちづくりの取り組みを支援する。		
実施主体	丹波篠山市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	修景助成	具体的な指標	修景助成件数
実績値	平成29年度: 2	平成30年度: 1	令和元年度: 1
目標値	令和3年度: 2	令和4年度: 2	令和5年度: 2
事業費	令和3年度: 3,148千円	令和4年度: 2,900千円	令和5年度: 2,900千円

(事業番号 4 - ④)

事業名	景観重要建造物の指定		
事業内容	地域の良好な景観形成に重要な役割を果たしている建造物に対して、景観重要建造物に指定する。		
実施主体	丹波篠山市		
事業期間	令和 3 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	景観重要建造物の指定件数	具体的な指標	景観重要建造物の指定件数 (件)
実績値	平成 29 年度 : 2	平成 30 年度 : -	令和元年度 : 1
目標値	令和 3 年度 : 3	令和 4 年度 : -	令和 5 年度 : 2
事業費	令和 3 年度 : 647 千円	令和 4 年度 : -	令和 5 年度 : 600 千円

(8) - 5 観光事業化

(事業番号5-①)

事業名	森林整備・活用		
事業内容	森林の整備を促進し、丹波篠山らしい里山景観の保全を図る。		
実施主体	丹波篠山市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	森林整備面積	具体的な指標	森林整備面積（間伐）
実績値	平成29年度： 308	平成30年度： 271	令和元年度： 210
目標値	令和3年度： 325	令和4年度： 325	令和5年度： 325
事業費	令和3年度： -	令和4年度： -	令和5年度： -

(事業番号5-②)

事業名	2拠点滞在ツアー		
事業内容	日本遺産構成文化財を活用した丹波篠山の魅力を感じることができる中期滞在ツアーを実施する。		
実施主体	Masse 丹波篠山		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	宿泊者数	具体的な指標	宿泊者数（千人）
実績値	平成29年度： 132	平成30年度： 122	令和元年度： 114
目標値	令和3年度： 91	令和4年度： 175	令和5年度： 183
事業費	令和3年度： 2,000千円	令和4年度： 2,000千円	令和5年度： 2,000千円

(事業番号5-③)

事業名	日本遺産構成文化財での周遊インバウンド誘客事業		
事業内容	日本遺産構成文化財での周遊インバウンド誘客にむけたツアー造成		
実施主体	丹波篠山市、丹波篠山まちのコンシェルジュ、Masse 丹波篠山		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	外国観光客数	具体的な指標	外国人観光客数（千人）
実績値	平成29年度： -	平成30年度： 13.1	令和元年度： 13.3
目標値	令和3年度： 10.0千人	令和4年度： 13.3千人	令和5年度： 16.6千人
事業費	令和3年度： 2,000千円	令和4年度： 2,000千円	令和5年度： 2,000千円

(事業番号5-④)

事業名	観光パスポート編集販売事業		
事業内容	民間事業による日本遺産構成文化財のツアー参加と関係人口、移住創出を視野に入れたパスポートを編集、販売する。		
実施主体	Masse 丹波篠山		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光入込客数	具体的な指標	観光入込客数(千人)
実績値	平成29年度: 1,748	平成30年度: 1,749	令和元年度: 2,025
目標値	令和3年度: 1,484	令和4年度: 2,031	令和5年度: 2,065
事業費	令和3年度: 2,000千円	令和4年度: 2,000千円	令和5年度: 2,000千円

(事業番号5-⑤)

事業名	宿泊施設の整備、充実支援		
事業内容	ワーケーションやブレジャー(出張先で滞在を延長するなどして、業務の後に旅行も楽しむこと)など、新しい観光スタイルに対応した宿泊施設整備を支援するほか、2025年開催の大阪万博に向け、宿泊事業者自らも、国県等の支援制度を活用し、国内外からの宿泊を伴う観光客らを受け入れるための宿泊施設の高付加価値化整備を実施する。		
実施主体	丹波篠山市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	宿泊者数	具体的な指標	宿泊者数(千人)
実績値	平成29年度: 132	平成30年度: 122	令和元年度: 114
目標値	令和3年度: 91	令和4年度: 175	令和5年度: 183
事業費	令和3年度: 300千円	令和4年度: 300千円	令和5年度: 300千円

(事業番号6-①)

事業名	丹波篠山デカンショ祭		
事業内容	「丹波篠山デカンショ祭」を開催し、地域内交流はもちろん、訪れる多くの観光客に丹波篠山の魅力を発信する。		
実施主体	デカンショ祭振興会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	日本遺産を後世に繋ぐ取組	具体的な指標	丹波篠山デカンショ祭来場者数(千人)
実績値	平成29年度: 69	平成30年度: 75	令和元年度: 41
目標値	令和3年度: 70	令和4年度: 75	令和5年度: 80
事業費	令和3年度: 37,000千円	令和4年度: 37,000千円	令和5年度: 37,000千円

(事業番号6-②)

事業名	郷土を愛し誇りに思う人材の育成		
事業内容	子どもたちが学ぶ喜びや地域と共に生きる喜びを実感するためふるさと教育を実施する。		
実施主体	丹波篠山市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の教育	具体的な指標	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合
実績値	平成29年度: 38.5	平成30年度: 42.8	令和元年度: 52.4
目標値	令和3年度: 60以上	令和4年度: 60以上	令和5年度: 60以上
事業費	令和3年度: 0	令和4年度: 0	令和5年度: 0

(事業番号 6-③)

事業名	市長の学校日本遺産出前講座		
事業内容	次世代を担う人材育成、普及啓発として、市長による学校日本遺産出前講座の実施をする。		
実施主体	丹波篠山市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	日本遺産を後世に繋ぐ取組	具体的な指標	丹波篠山デカンショ祭ジュニア競演会の参加団体数（団体数）
実績値	平成29年度： 5	平成30年度： 5	令和元年度： 6
目標値	令和3年度： 10	令和4年度： 10	令和5年度： 10
事業費	令和3年度： 181千円	令和4年度： 181千円	令和5年度： 181千円

(事業番号 6-④)

事業名	丹波篠山市の文化講座（郷土愛を育む現地学習会、おもしろゼミナール、丹波篠山の歴史を学ぶ講座など）事業		
事業内容	丹波篠山の歴史・文化・自然に触れ、魅力を知ることにより歴史遺産を大切に作る心と郷土愛を育むため文化講座を実施する。		
実施主体	丹波篠山市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	丹波篠山市の文化講座参加者のアンケート結果	具体的な指標	丹波篠山市の文化講座を受講して良かったとする受講者の割合
実績値	平成29年度： 80%	平成30年度： 80%	令和元年度： 80%
目標値	令和3年度： 80%以上	令和4年度： 80%以上	令和5年度： 80%以上
事業費	令和3年度： -	令和4年度： -	令和5年度： -

(事業番号 6-⑤)

事業名	環境教育・環境学習の促進		
事業内容	自然環境や景観を資源と捉え、学校などと共に地域の特色を活かした環境教育・環境学習を促進する。		
実施主体	丹波篠山市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	環境保全活動の実施主体数	具体的な指標	環境保全活動の実施主体数
実績値	平成29年度： 19	平成30年度： 31	令和元年度： 21
目標値	令和3年度： 30	令和4年度： 30	令和5年度： 30
事業費	令和3年度： 1,500千円	令和4年度： 1,550千円	令和5年度： 1,600千円

(事業番号 6-⑥)

事業名	ふるさとの川水路再生事業		
事業内容	遊べる水路づくりを実施し、豊かな生態系を保全し、子どもたちも大人も安全に楽しく遊べる場づくりを進め、自然と調和した丹波篠山らしい、「魅せたい風景」を保全・創出・活用する。		
実施主体	丹波篠山市		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	川と水路の再生実施	具体的な指標	実施箇所数
実績値	平成29年度： 2	平成30年度： 2	令和元年度： 2
目標値	令和3年度： 3	令和4年度： 3	令和5年度： 3
事業費	令和3年度： 19,000千円	令和4年度： -	令和5年度： -

(事業番号7-①)

事業名	観光情報サイトや SNS を活用した情報発信		
事業内容	観光情報サイト、海外情報発信サイトや SNS (Facebook、Instagram、YouTube など) を活用して積極的に日本遺産や丹波篠山の魅力を国内外へ情報発信する。		
実施主体	丹波篠山市、丹波篠山観光協会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	観光情報サイト PV 数	具体的な指標	観光情報サイト PV 数 (千件数)
実績値	平成29年度： -	平成30年度： 1,243	令和元年度： 1,313
目標値	令和3年度： 1,218	令和4年度： 1,265	令和5年度： 1,311
事業費	令和3年度： 3,828 千円	令和4年度： 3,828 千円	令和5年度： 3,828 千円

(事業番号7-②)

事業名	丹波篠山市民サポーターによる情報発信		
事業内容	市民がインフルエンサーとなって日本遺産丹波篠山の魅力を広く口コミなどで国内外へアピールする。		
実施主体	市民		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	情報発信数	具体的な指標	情報発信数 (件数)
実績値	平成29年度： -	平成30年度： -	令和元年度： -
目標値	令和3年度： 500	令和4年度： 1,000	令和5年度： 1,500
事業費	令和3年度： 0	令和4年度： 0	令和5年度： 0